

学位論文要旨

氏名 伊藤 信寿

題目 ペアレント・トレーニングにおける母親の養育行動と経験学習プロセス

学位論文要旨（和文 2,000 字又は英文 1,000 語程度）

本研究の目的は、ペアレント・トレーニングにおける母親の養育行動の変化に影響を与える要因として、母親自身の子どもに対する認識の修正と今までの不適切な対応に母親自身が気付くことが重要であると仮説を立て、母親の内省と認識の修正における継時的変化の関連性を分析し検討することである。さらに本ペアレント・トレーニングは、母親の育児経験の積み重ね、それらの内容を振り返り、そこから新たな養育行動を引き出し、次の状況に応用することを意図している。そのため、Kolbの経験学習モデルが、本ペアレント・トレーニングに適用されるのではないかと考え、母親の認識が修正されるまでのプロセスを経験学習モデルに当てはめながら考察した。

本論文は、第I章から第VI章までで構成された。第I章は、ペアレント・トレーニングの現状、本ペアレント・トレーニングの概要と特性、さらにKolbの経験学習モデルの本ペアレント・トレーニングへの適用の可能性について示した。

第II章は、母親によるチェックリストと、1事例における子どもの標的行動の変化を分析し、ペアレント・トレーニングの効果に関して検討した。その結果、親子関係検査においては、母親の拒否的態度と支配的態度が減少したことを示した。また、母親の育児ストレスにおいては、子どもの行動に関する母親の感情という項目において有意な減少を示した。これらの結果は、母親が子どもの行動を受け入れられるようになった結果と考えられた。さらに、1事例においては、標的行動が変容したことを確認した。

第III章は、実験的場面において、子どもに対する母親の言動の変化を検討した。その結果、肯定的な言動は有意差がなかったが、否定的な言動は有意に減少したことを示した。この結果は、子どもの行動に対して褒めたり、適切な指示を与えることという母親の適切な表現の定着は難しいが、母親が子どもの不適切な行動より、適切な行動に注目するようになった結果だと考えられた。以上のように、本ペアレント・トレーニングの効果を検討し、母親の子どもに対する認識の修正と、言動における修正が確認できた。しかし、ペアレント・トレーニングの構成要素が効果に与える影響、母親の認識や養育行動が修正されるプロセスについては、検討していない。

そのため、第IV章では、修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ（以下 M-GTA）の手続きに従い、母親の認識が修正されるプロセスと、プロセスに影響を与えたプログラムの構成要素を検討した。その結果、母親の認識が修正されるまでには、まず「子どもの現状を理解する」こと、次に今

までの「不適切な対応に気付く」こと、そして「適切な対応を意識」という内省するプロセスを経ていた。さらに、母親の認識が修正されるプロセスを Kolb の経験学習サイクルに当てはめながら考察すると、具体的経験→内省的観察→抽象的概念化→能動的試行という Kolb の経験学習サイクルと同様のプロセスを経ていた。また、母親の認識の修正に影響を与えた要因として、「記録を付ける」こと、「他の参加者からの助言」、「スタッフからの助言」、「母親自身の成功体験」が挙げられた。

第V章は、母親の認識が修正されていく継時的変化を検討した。その結果、母親は、子どもとの悪循環な相互作用の経験という具体的経験をしており、第1セッションにおいて、母親の記録と報告を基にして、他の参加者やスタッフからの助言を受けながら内省的観察を行っていた。さらにスタッフから養育行動の提案がされ、第2セッションまでの間は、スタッフから提案された新たな養育行動を家庭で実践していた（具体的経験）。そして、第3セッションにおいても、母親の報告→提案された養育行動→実践というサイクルが繰り返された。具体的経験と内省的観察の繰り返しの中で、成功体験を積み重ねることにより、新たな養育行動の認識が形成されていた（抽象的概念化）という継時的変化が明らかになった。さらに母親の認識が修正されるプロセスには、内省が重要であり、母親が付ける記録と、他の参加者からの助言が内省を促す要因であることが明らかになった。

第VI章は、総合考察として、経験学習モデルを参照して、母親の認識の修正を促すためのペアレント・トレーニングを検討した。これは、母親の記録と他の参加者からの助言により母親の内省を促し、成功体験を積み重ね、新たな養育行動を形成することを重視したペアレント・トレーニングであった。

以上のように、本研究では、ペアレント・トレーニングにおいて母親の子どもに対する認識と養育行動に対する認識が修正されたことを示した。さらに、認識が修正されるプロセスは、Kolb の経験学習モデルに当てはめることができた。また認識が修正されるプロセスは、記録、他の参加者からの助言、スタッフからの助言、成功体験が必要であることが明らかとなった。